

令和5年

第1回仙北市議会定例会
教育行政報告

仙北市教育委員会

令和5年2月21日

令和5年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、主な事項について、ご報告させていただきます。

【学校適正配置準備室】

◇学校適正配置方針について

本市が将来に目指す学校教育の方向性を示す「学校適正配置方針」について、今年度内の策定に向けて作業を進めています。

これまで市民の皆様と、意見交換会やアンケート調査等を通じて、学校教育を取り巻く現状と課題を共有し、将来に望む学校の在り方について様々な意見を聴くことができました。

そうした市民の皆様から直接いただいた意見のほか、昨年8月に設置した学校適正配置検討委員会の3回にわたる検討会議を踏まえ、将来的、全市的な観点から方針の検討を行ってきました。

この方針は、令和8年度までに策定を目指す「学校適正配置計画」の基本的な考え方を示すものとなります。

方針案につきましては、本議会定例会の会期中に議員の皆様の説明の機会を設けさせていただく予定です。

【学校教育課】

◇2022あきたキッズプログラミングアワードについて

12月11日に「2022あきたキッズプログラミングアワード～未来を変えるのは君だ～」の最終審査が行われました。これは、秋田魁新報社が主催する小中学生対象のプログラミングコンテストで、今回のテーマは「みんなの未来」でした。

133組(148人)の中から、アイデア部門において神代小学校6年の藤川凜(ふじかわ りん)さんが秋田魁新報社賞、西明寺小学校5年の畠山芽依(はたけやま めい)さんが秋田工業高等専門学校賞、西明寺小学校6年の佐藤瑤姫(さとう たまき)さんがCNA秋田ケーブルテレビ賞、ソフトウェア部門において神代小学校6年の藤本紫乃(ふじもと のん)さんと渡部桜(わたなべ さくら)さんのペア、神代小学校6年の松橋勇羽(まつはし ゆう)さんが秋田魁新報社賞、生保内小学校5年の加藤生深(かとう いくみ)さんがゼロニウム賞を獲得しました。

今後も、自分たちの未来を自分たちで切り拓いていこうとする子どもたちを支え、ふるさとを盛り立てていく気持ちを育てていきたいと思えます。

◇第72回秋田県統計グラフコンクールについて

統計に関する知識を広め、統計の表現技術を高めることを目的に実施されている第72回秋田県統計グラフコンクールにおいて、角館小学校4年の新田淳仁（にった あつと）さんが特選、神代小学校5年の船山実倫（ふなやま なおみち）さんが入選を獲得し、第70回統計グラフ全国コンクールに出品されました。

データを整理し、図やグラフを用いて分かりやすくまとめる力は、文部科学省が掲げるGIGAスクール構想の実現に向けて非常に大切な技能になります。今後もICT端末の効果的な活用に向けて取り組んでいきます。

◇第66回秋田県中学校スキー大会の結果について

1月13日から15日にたぎわ湖スキー場・田沢湖スポーツセンタークロスカントリーコースを会場に開催された第66回秋田県中学校スキー大会において、アルペン女子で角館中学校3年の佐々木碧波（ささき あおば）さんが大回転、回転共に第2位となり東北・全国大会の出場権を獲得しました。西明寺中学校3年の畠山紗依（はたけやま さえ）さんが大回転で第7位、回転で第8位となり、東北大会の出場権を獲得しました。

クロスカントリー男子クラシカル・フリーで、神代中学校2年の清水快真（しみず かいしん）さんがどちらも第4位となり東北・全国大会の出場権を獲得しました。

◇第59回東北中学校スキー大会について

1月25日から27日に福島県猪苗代スキー場・伊南クロスカントリーコースにて、第59回東北中学校スキー大会が開催され、角館中学校3年の佐々木碧波（ささき あおば）さんがアルペン女子大回転で第3位、回転で第4位となりました。

◇第53回大曲仙北小中学校スキー大会について

1月28・29日にたぎわ湖スキー場・田沢湖スポーツセンタークロスカントリーコースを会場に大曲仙北小中学校スキー大会が開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染対策のため開催できませんでした。今年度は2年ぶりの開催となりました。郡内の小中学校から127名の参加となりましたが、本市からは54名の参加でした。この大会を目標としてきた子どもたちが精一杯の滑りをするとともに、保護者の応援も熱が入り、スキー場に活気が戻りました。スキーを愛する子どもたちを育てるためにとても重要な大会となりました。

【北浦教育文化研究所】

◇第4回子ども議会について

1月11日、市内小・中学校の代表24人が議員となり、「第4回仙北市子ども議会～地域の一員として私たちにできる提言は～」が田沢湖庁舎議場で開催されました。今回は人口減少や少子高齢化に対してどのような対策を講ずればよいか、また、市の活性化のためにどのような対策が有効かという視点で提言がなされました。子どもたちは、市民意識調査結果などの資料を基に仮説を立て、観光客のさらなる誘致、また、定住者の増加等についてしっかりとした考えをもち、プロジェクターを活用して分かりやすく意見を説明しました。市当局からは担当部長が答弁し、子どもたちはまちづくりについて真剣に考えている様子でした。

教育委員会では、早期から仙北市の素晴らしさや諸課題に向きあわせていくことで、仙北市を愛する気持ちと、仙北市を背負って立つ志をより一層育んでいきたいと考えています。課題をたくさん抱えている仙北市ですが、「一緒に頑張ろう」とする若者がいる限り、未来は拓かれていきます。市としても、今回の提言を市の活性化のための重要な提案と考えており、子どもたちとの話し合いを継続し、内容を精査した上で、少しでも実現していきたいと考えています。教育委員会としては、子どもたちの市政参画を一層サポートし、成長につなげてまいります。

【総合給食センター】

◇仙北市学校給食調理等業務委託指名型プロポーザルについて

1月20日に学校給食調理等業務委託指名型プロポーザルの審査会

を行いました。審査会では、4社からの提案があり、提出された企画提案書を基に、衛生管理の徹底や食物アレルギーへの的確な対策と知識、実績を兼ね備えた事業者を選定しました。今後は、第1委託候補者と契約に向けた協議を重ね、今年度中の契約締結を予定しています。

◇思い出に残る給食について

12月から2月までの期間、小・中学校の最高学年を対象にスペシャル給食を実施しました。いつもより豪華なおかずと自分たちで選んだデザートや飲み物で思い出に残る給食を楽しみました。

また、1月の全国学校給食週間では、秋田の郷土料理や秋田県産の食材を取り入れた比内地鶏カレーや、だまこ汁、そして子どもたちに人気の高い角館の郷土料理「おかりば焼き」が提供されました。

3月には学校給食が最後となる中学校3年生にもう一度食べたいメニューを聞いて献立作成に活かす「リクエスト給食」が実施されます。

【公民館】

◇新春書きぞめ展について

例年、1月に開催していた「新春書きぞめ大会」について、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策のため中止とし、代わりに作品を募集して展示する「新春書きぞめ展」を開催しました。市内小・中学校等から昨年を上回る57点の応募作品があり、平福記念美術館で1月11日から20日まで展示され、たくさんの方に鑑賞していただきました。

【学習資料館・イベント交流館】

◇企画展について

新潮社記念文学館では、11月15日から2月26日までの会期で「坂本梅子 詩の世界展」を開催しています。坂本梅子は直木賞作家の千葉治平の姉で、秋田の現代詩に大きな影響を与えた女流詩人です。その後、3月11日からは「高井有一展」を開催します。

【平福記念美術館】

◇第45回児童生徒県南美術展について

11月28日から1月24日まで「第45回児童生徒県南美術展」を開催

しました。会期中の入館者数は2,522人でした。今回は小・中学校69校から862点の絵画や立体作品が出品され、11月21日の審査会で特賞23点、奨励賞200点、入選639点が決定しました。仙北市の特賞受賞者は4名で、角館中学校3年の川井羅夢(かわい らいむ)さんが仙北市長賞、角館中学校3年の武藤昊(むとう こう)さんが仙北市議会議長賞、白岩小学校4年の高橋佳菜実(たかはし かなみ)さんが秋田魁新報社賞、角館中学校3年の藤川羽奈(ふじかわ はな)さんがAKT秋田テレビ社長賞に選ばれました。なお、特賞受賞者の表彰式は、昨年と同様に新型コロナウイルス感染対策のため中止とし、賞状及び記念品は学校経由で受賞者にお渡ししました。

また、美術展開催期間中に、館内カルチャールームを会場に12月20日から1月22日まで「お気に入りの角館展」及び「角館中美術部展」を開催し、角館中学校全クラスの生徒が描いた町の風景のスケッチや美術部員の作品を展示しました。

以上、教育行政に関する報告を申し上げ、教育行政報告といたします。